



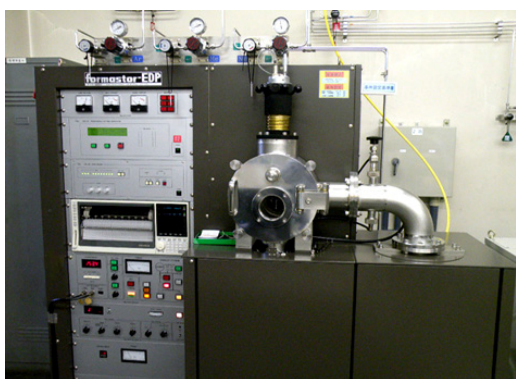
極低温対応の変態点測定装置フォーマスター

高温から極低温 (-150°C) までの熱膨張および変態挙動の評価に貢献

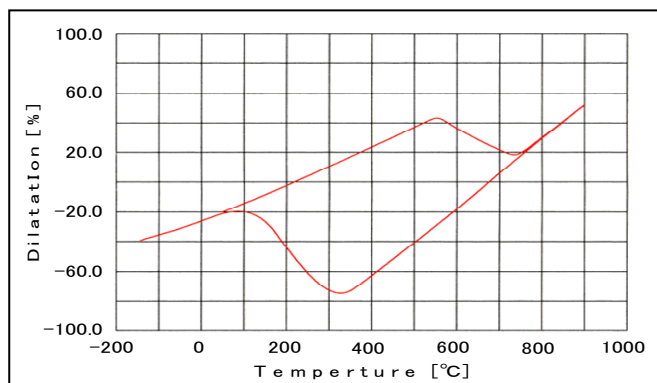
測定装置の仕様および特徴

- 概要 : 試験片の加熱、冷却時の熱膨張変化量から、材料の相変態挙動を評価
- 試験装置 : 富士電波工機社製 Formastor-EDP (室温以上)
Formastor-F II (極低温型)
- 温度制御方式 : 高周波誘導加熱およびガス(窒素、ヘリウム)による冷却方式
- 試験温度 : 1400°C ~ -150°C
- 雰囲気 : 真空または不活性ガス(アルゴン、窒素、ヘリウム)
- 試験片寸法 : 標準試料 φ3.0×10mm、板材は板厚0.7~2.5mm、特殊サイズはご相談
- 加熱速度(室温以上型) : Max.100°C/sec(制御加熱)、Max.280°C/sec(非制御)
(極低温型) : Max.30°C/sec(制御加熱)
- 冷却速度(室温以上型) : Max.50°C/sec(制御冷却)、Max.300°C/sec
(極低温型) : Max.100°C/sec(1200°C~50°C)、Max.1.5°C/sec(50°C~-150°C)

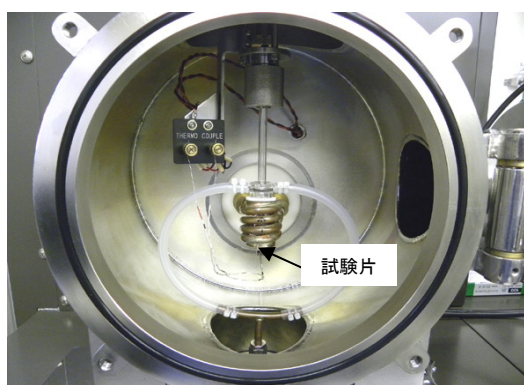
測定および観察例



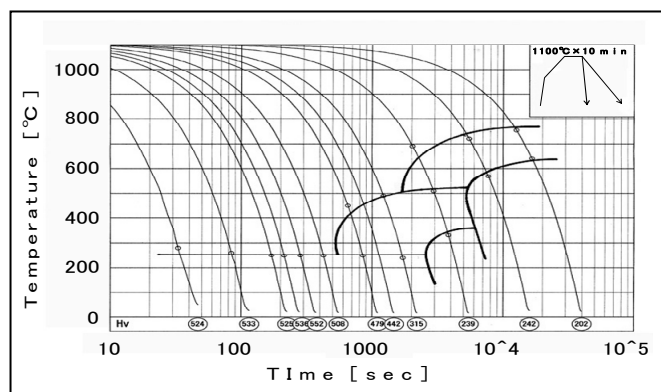
装置: 富士電波工機社製 formastor-F2



極低温域(-150°C)までの熱膨張曲線図



加熱部(極低温型)



CCT曲線図



JFE テクノリサーチ 株式会社

<http://www.jfe-tec.co.jp>

0120-643-777

Copyright ©2010 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved.
本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。